

# にほん ふうしゅう ひがん ひがんばな 日本の風習・お彼岸と彼岸花

## せいかつ なか ひがん 生活の中のお彼岸

ひがん ねん かい はる あき  
お彼岸は年に2回、春と秋にあります。

ひる よる なが おな しゅんぶん  
昼と夜の長さがほぼ同じになる春分の

ひ しゅうぶん ちゅうしん ぜんご にちかん あ にちかん ひがん よ  
日と秋分の日を中心に前後3日間を合わせた7日間をお彼岸と呼び  
ます。「彼岸」とは仏教の言葉で「あの世」を指します。昼と夜が同  
じ長さになるこの二日は「あの世」と「この世」が近づく日とされ  
ています。「彼岸の中日」としてお墓参りをする家も多いのではない  
でしょうか。

あつ さむ ひがん ことば あき ひがん す  
「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があります。秋の彼岸を過ぎれば  
あつ やわ はる ひがん す さむ いちだんらく す  
暑さも和らぎ、春の彼岸を過ぎれば寒さも一段落して過ごしやす  
くなる、という意味の慣用句です。お墓参りのお供えはもち米とう  
るち米を一緒に炊き、軽くつぶしてあんこで丸めた「ぼたもち」や  
「おはぎ」です。はる ぼたん はな  
「ぼたもち」、秋は萩の花の時期なので「おはぎ」  
と云うのだそうです。



## ひがんばな (彼岸花) って？

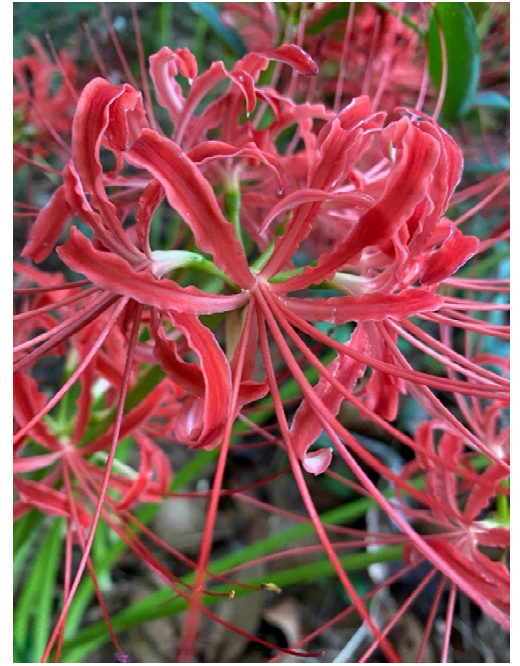
ちきゅう こうてん たいようれき かんけい ごさ しょう しゅんぶん ひ しゅうぶん  
地球の公転と太陽暦の関係で、誤差が生じるので春分の日と秋分  
ひ とし かわり ねん しゅんぶん ひ がつ  
の日は年によって変わります。ちなみに2021年の春分の日  
にち しゅうぶん ひ がつ にち あき ひがん ころ さく  
20日、秋分の日  
は9月23日です。その秋の彼岸の頃になると咲くのが  
ひがんばな  
がヒガンバナです。その名前由来は「彼岸に必ず咲くから、食べ  
ると彼岸（あの世）に行ってしまう」などと諸説あります。

きゅうこん しょくよう  
大きな球根があり、まれに食用にもされたようですが、  
その球根をはじめ全体に強い毒を持っているので、  
どくぬ ようちゅうい  
毒抜きをしなければ、要注意です。



逆に毒は動物にとっても怖いもので、田んぼの畦や畑の周囲に植えてモグラやネズミなど悪さをする動物よけにも使われていました。

「ヒガンバナを家に持って帰ると火事になる」という言い伝えは不吉な意味が、子どもたちをヒガンバナの毒から遠ざけるための知恵と考えられています。



ヒガンバナは曼珠沙華とも呼ばれ、学名をリコリスと言いますが、その他に「幽霊花」「地獄花」などたくさんの別名を持ちます。



その生態はとても不思議で「葉見ず花見ず」と言われます。春から夏にかけて茎が伸びて秋の彼岸の頃に突然花が咲き、その花が枯れる頃に葉が出てきます。冬の間葉を伸ばして養分を球根に蓄え、春に葉が枯れます。他の植物と栄養(日光)を奪い合わない、ヒガンバナの生きる知恵なのではないでしょうか？

海外にはリコリスと呼ばれるお菓子がありますが、それはヒガンバナとは違うリコリス(甘草という植物)を使ったお菓子です。

### アクティブレンジャーを出前授業に呼んでみませんか？

この記事を書いている兵庫県北部・日本海側にある竹野自然保護官事務所の久畑(くばた)です。

漂着物・生き物など自然の中で学べる授業を行っています。

↓↓興味のある方はお気軽に下記までご相談ください↓↓

環境省 神戸自然保護官事務所 TEL: 078-331-1146 FAX: 078-331-1148

竹野自然保護官事務所 TEL: 0796-47-0236 FAX: 0796-47-0249

